



九重町 議会だより

謹賀新年



もくじ

- 新年のご挨拶・補正予算 P2
- 議案リスト・補正予算質疑応答 P3
- 総務建設産業常任委員会報告 P4
- 教育民生観光常任委員会報告 P5
- 議会活動報告 P6~7
- 議会のあり方検討特別委員会報告 P8
- 一般質問(8名) P9~P16
- きらり★このえ人
(松木前辻 武石秀一さん) P17
- バトンをつなぐ(野上)
編集後記 P18



新年あいさつ

九重町議会議長 佐藤明郎



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
町民の皆様方には、平素より議会に対するご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は例年以上の猛暑に見舞われ、秋が消えたかのような急激な季節の変化により、農産物等も多大な影響を受けました。九重町では豪雨や大型台風の直撃は免れましたが、全国各地では集中豪雨や地震、県内でも8月の大雨や佐賀関の大規模火災などの被害が発生し、自然の脅威を痛感するとともに、災害に強いまちづくりの重要性を再認識しました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

また、全国的課題である少子高齢化や人口減少は、当町にとつても避けて通ることのできない最重要課題であります。

そのような中、昨年は議会のあり方について町民の皆様から直接お話を伺う「意見交換会」に注力いたしました。議員定数や報酬について厳しいご意見もいただきましたが、それらを尊重しながら検討を重ねた結果、今回については定数・報酬ともに現状維持とする結論に至りました。意見交換会の開催にご尽力いただいた皆様、ご参加いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

議会は「町民の意思を代表する機関」であります。この厳しい状況下だからこそ、住民の皆様と議会が膝を交えて対話を重ねね意思疎通を図り、一致団結してすべての町民が輝くまちづくりに進める必要性を再確認いたしました。

「お出かけ議会」は常に窓口を開けており、少人数の集まりでも、お気軽にお声がけいただければ幸いです。

今年が皆様にとりまして、心穏やかでご健勝、ご多幸な一年でありますようにご祈念申し上げます。新年の挨拶いたします。

原案可決

一般会計・特別会計・公営企業会計補正予算

12月定例会

本定例会は12月2日から12月17日までの16日間開催されました。議案9件を慎重に審議し原案のとおり可決しました。

令和7年度一般会計補正予算(第7号)

補正前の額 88億4,579万4千円
補正額 △1億3,805万5千円
補正後の額 87億 773万9千円

補正予算の主な内容

歳入	増額	○普通交付税	2億2,080万6千円	
	減額	○物価高騰重点支援地方創生臨時交付金	2,458万3千円(国庫補助金)	
歳出	増額 減額	○社会資本整備総合交付金	△3,305万円(国庫補助金)	
		○道路メンテナンス事業費補助金	△1,014万7千円(国庫補助金)	
		○財政調整基金繰入金	△2億6,300万円	
		○社会資本整備総合交付金事業	△3,160万円(町債)	
		○小学校施設費	4,000万円	
		○総合行政情報推進事業費	△5,256万8千円	
特別会計	増額 減額	○社会資本整備総合交付金事業	△7,700万円	
		○農地災害復旧費	△3,000万円	
		補正前の額	補正額	補正後の額
		○国民健康保険	14億7,704万2千円	* 0円
○介護保険	16億 630万6千円	△30万7千円	16億 599万9千円	
○後期高齢者医療	2億 930万4千円	897万7千円	2億1,828万1千円	

※歳入歳出調整による

公営企業会計(簡易水道事業)

収益的収入及び支出	既決予算額	補正予定額	計
水道事業費用	1億9,370万1千円	6万7千円	1億9,376万8千円

第4回九重町議会定例会 「令和7年12月2日～12月17日」

議案番号	件名	付託	結果
議案第95号	九重町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について	総建産	可決
議案第96号	九重町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	教民観	可決
議案第97号	宝泉寺交通センターの指定管理者の指定について		可決
議案第98号	字の区域の変更について	総建産	可決
議案第99号	令和7年度九重町一般会計補正予算（第7号）		可決
議案第100号	令和7年度九重町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）		可決
議案第101号	令和7年度九重町介護保険特別会計補正予算（第2号）		可決
議案第102号	令和7年度九重町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）		可決
議案第103号	令和7年度九重町簡易水道事業会計補正予算（第4号）		可決
陳情第4号	「町道認定を求める陳情書」大字田野 町道堀樺山線隣接道	総建産	採択

12/2 本会議 質疑

増田 裕子

Q 議案第95号の7号「前6号に掲げるもののほか、町長が特に必要と認めるもの」は必要か。

A 災害時等、緊急を要する場合に必要となるかもしれない。条例の運用に関してはガイドラインを作成して対象となるものを一覧化し、明確にしていきたい。さらに総務課でチェックする。『その他町長が特に必要と認めるもの』を適用した場合には報告する。

日田玖珠広域消防組合議会

9月29日、令和7年第2回臨時会が開催されました。

条例議案2件、予算議案1件、認定議案1件、議員提出議案2件の計6件が上程されました。

審議、採決の結果5議案が承認され、認定議案「令和6年度一般会計決算認定について」は、決算審査特別委員会を設置、付託し、十分な審査を行うため閉会中の継続審査とすることが承認されました。

10月27日、決算審査特別委員会が開催され、審査の結果「令和6年度一般会計決算認定について」は認定すべきものと決し、12月23日の本会議で認定されました。

なお、当消防組合では大規模災害等への対応や構成自治体の財政状況等を考慮し、人員数の適正化や消防車両等の更新が計画的に図られています。



日田玖珠広域消防組合消防本部

（令和6年度一般会計決算額）

歳入総額…17億4,163万6千円

歳出総額…17億3,316万9千円

形式収支・実質収支…846万7千円の黒字

玖珠九重行政事務組合議会

9月26日、令和7年第2回定例会が開催されました。

認定議案1件、予算議案1件、条例議案2件の計4件が上程されました。

審議、採決の結果4議案全てが承認されました。

認定議案「令和6年度一般会計歳入歳出決算の認定について」は、以下の内容等でした。

歳入総額…7億1,774万5千145円

歳出総額…6億9,261万3千825円

形式収支・実質収支…2,513万1千320円の黒字でした。

町負担金総額に対する負担割合は、玖珠町「59.2%」、九重町「40.8%」でした。

一般質問も2件行われ（岩尾議員）、以下の内容でした。

質問…各種基金を増額すべきでは。

答弁…両町負担金での対応を基本と考えている。

質問…残骨灰の売却も検討すべきでは。

答弁…調査、研究等含め検討する。

「委員会に付託を受けた下記2議案・陳情1件は全て可決・採択となりました」

議案第95号「九重町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について」は

地方自治法第234条の3および同施行令第167条の17に基づき、翌年度以降にわたり契約締結が必要となる物品の借入れや役務提供に係る契約について、債務負担行為を設定せずに長期継続契約を締結できるよう必要な契約範囲を定めるものです。これにより契約の連続性を確保し行政事務に支障が生じることを防ぐために必要な条例の整備をするものであり、ガイドラインも提示され予算については当初予算で確認できることから、適当であるとの結論に達しました。

長期継続契約の対象

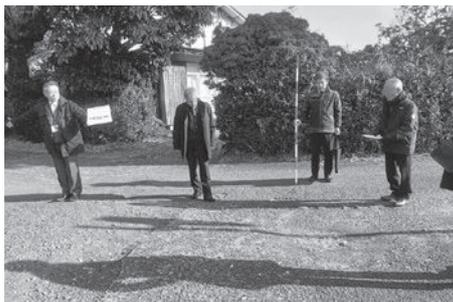
1. 電子計算機、複写機、電気設備その他事務用機器の借入れ、利用又は保守に関する契約
 2. 事務用機器で使用するソフトウェアの借入れ、利用又は保守に関する契約
 3. 電器通信回路を介したサービスの利用又は保守に関する契約
 4. 庁舎その他公共施設の管理業務、清掃業務、警備業務委託に関する契約
 5. 庁舎その他公共施設の付随する設備の保守点検業務又は運転業務に関する契約
 6. 公用車の借入れに関する契約
- 前6項目に掲げるもののほか、町長が必要と認めるもの

議案第98号「字の区域の変更について」は

土地改良事業“ゆめ”タウンここのえ2期地区黒猪鹿工区の換地処分に伴い、「字黒猪鹿」と「字藤尾」が混在していた区域について、字名を「字藤尾」に統一するもので、土地改良事業の竣工に伴う必要な区域変更であり、適当であるとの結論に達しました。

陳情受付番号4号「町道認定を求める陳情書」は

中村上行政区区長 能方 庄三 氏外4名より提出され、大字田野字倉園に位置する町道堀櫟山線の隣接道において、中村上行政区の生活関連道路として利用されている里道について、町道認定を求める陳情であり、審査にあたり、事前に区長及び建設課職員の立会いのもと、委員全員にて現地調査を実施いたしました。その結果、沿線地主の承諾も得られていることから、陳情の趣旨どおり「採択」することで意見の一致を見ました。



現地確認の様子

「委員会に付託を受けた下記2議案は全て可決となりました」

議案第96号「九重町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について」

「こども未来戦略」に基づき、新たに創設された「こども誰でも通園制度」を来年度から実施するための新しい条例です。

生後6か月から満3歳未満までのこどもで、保育所等を利用していない家庭が対象です。

就労要件や場所は問いません。月に10時間以内、1時間300円で利用できます。

利用したいと思ったら、まず役場の健康・子育て支援課（0973-76-3828）に電話してください！

相談も受け付けます。



議案第97号「宝泉寺交通センターの指定管理者の指定について」



宝泉寺交通センター

令和8年4月からの3年間について、宝泉寺交通センターの指定管理者が決まりました。引き続き、このえまち総合サービス株式会社が行います。

競争入札が1者だけなので、できればもう何者か参加できるようになると、町として活気が出るので、要件等の見直しなど考えてはどうか、と意見が出ました。

様々な報告や意見が交わされました〈一部紹介〉

- ・野上中学校跡地利用（R8度設計・R9～工事）、具体的なイメージを早く
- ・野上小学校長寿命化の進捗状況（仮設校舎と本体工事を分けて予算計上）
- ・部活動の地域移行は6年延長の見込み（国方針の転換を受けて）
- ・新たに湯坪発電所（地熱発電）が建設される予定
- ・会計年度任用職員の働き方等の突然の変更について説明を求める

8/8

大分県町村議会議長会研修①

会 場：日出町中央公民館
 講 師：元兵庫県議会議員・元伊丹市議会議長
 相崎 佐和子氏
 演 題：「実現につながる一般質問の作り方」
 概 要

相崎氏より、議会における一般質問を政策実現へと結びつけるための工夫や留意点について講演が行われました。

質問の準備段階から、課題の整理、論点の明確化、答弁を引き出すための表現方法など、実務に直結する具体的な手法が示され、参加者にとって有意義な学びの場となりました。



11/7

日田玖珠議長会研修



会 場：マリエールオークパイン（日田市）
 講 師：自治体議会研究所 代表 高沖 秀宜氏
 演 題：「議会の質を高める質問力」
 概 要

高沖氏からは、議会活動の質を左右する「質問力」について、倫理と実践の両面から解説がありました。

議員が持つべき視点、住民の声を反映させる質問の組み立て方、議会全体の活性化につながる質疑のあり方などが具体的に示され、参加者の理解が深まる内容でした。

11/20

大分県町村議会議長会研修②

会 場：くすまちメルサンホール
 講 師：全国町村議会議長会 参与 赤羽 正法氏
 概 要

地方議会の役割や議会の権限について、制度的背景と現状の課題を交えながらの講演でした。

議会の位置づけを再確認するとともに、住民自治の根幹を担う議員の責務について理解を深める機会となりました。



11/11~12

日出生台対策特別委員会

11月11日から一泊二日の日程で陸上自衛隊対馬駐屯地を訪問しました。対馬は、韓国に最も近い国境の島であり、国境警備の最前線に位置しています。今回の訪問では、対馬警備隊長兼対馬駐屯地司令への表敬訪問を行い、防衛に関する講話を拝聴しました。また、明治期に築かれた国防遺産である上見坂堡壘の見学も行い、国境を守る歴史と現在の防衛体制について理解を深めました。国境離島が果たす役割や平時からの備えの重要性を改めて認識する、貴重な機会となりました。

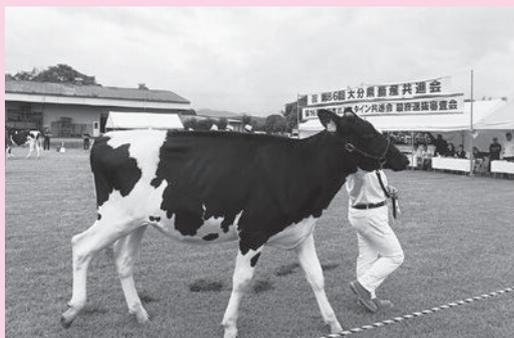


9/28

大分県畜産共進会乳用牛の部

9月28日に大分市みどりの王国で第86回畜産共進会及び第16回全日本ホルスタイン共進会最終選抜審査会が行われ、総務建設産業常任委員会正副委員長で激励に行きました。

岡嶋 建一郎 氏出品の★ヒルアイランドアクションクラッシュジュリア号が第3部主席リザーブジュニアチャンピオン獲得★ヒルアイランドドラゴンデンバーチップ号が第5部リザーブグランドチャンピオンを獲得致しました。



10/21

大分県畜産共進会肉用牛の部

10月21日に玖珠家畜市場で第86回畜産共進会肉用牛の部が開催され、総務建設産業常任委員会全員が激励に行きました。

九重町から9頭が出品され、第3区出品(株)鷺頭牧場飼育の「こころ1号」と、第5区出品 箴島リエ氏飼育の「みえ3号」が最優秀の一席に輝き、特別賞として、(株)鷺頭牧場飼育の「こころ1号」が九州農政局長賞の榮譽に輝きました。



九重町 議会のあり方検討特別委員会の検討結果報告

結論『議員定数・議員報酬についてはどちらも現状維持とする』

議会のあり方検討特別委員会は3部会を編成し、それぞれの部会で審査内容の検討を重ね、全体会に因るという進め方で委員会としての審査を進めました。加えて、住民との意見交換会を実施し、多くの住民の意思が反映される結論になるよう4月から8月末まで周知・広報・意見交換の期間を設けました。

定数については6方式・報酬については7方式の全国の事例を示した上で、個々の議員の意思表示を受けてそれぞれでグループディスカッションを行いました。その内容について以下にお示しします。

定数について

現状維持・12名の現状を維持するグループ・・・7名（菅原・大津留・増田・岩尾・野上・佐々木・矢野）

主張と根拠： 常任委員会の人数を6人として二つの常任委員会を設ける（現行どおり）。単なる人口比例方式ではなく、九重町の地理的な問題である広大な面積に集落が点在する特徴から広く民意を十分に反映するには現行の定数が妥当である。また常任委員会の構成も十分な審議、適正な運営のためには6名が必要である。

定数2名削減・条件付き定数2名削減グループ・・・4名（有吉・土井・岐部・河野）

主張と根拠： 人口比例方式を採用し、将来的に急激な人口減少を迎えることがはっきりと理解できる中、現行の12名でなくても、常任委員会並びに議会運営は経験上、充分成し遂げられると考える。従って、現行から2名削減し、10名で議会の運営はできるものと判断した。常任委員会についても、5名で、十分に執行部のチェックはできるものとする。条件付きとは、定数を2名削減し、その分の議会費を10名に按分すると言う条件付きであり、いずれにしても定数の2名削減と言う結論である。

報酬について

現状維持・現行の25万円を維持するグループ・・・5名（菅原・増田・野上・佐々木・矢野）

主張と根拠： 類似団体比較方式を主に採用し、基本的に議員の報酬は、報酬審議会がまず検討する。物価高騰等社会的状況は大きく変化しているが、議員報酬を上げる必然性に乏しい。

報酬増額・定数維持グループ・・・2名（大津留・岩尾）

主張と根拠： 長給与基準方式と言う町長を始めとする特別職の報酬額や推移を参考にして、議員の報酬を算出するという考え方を主としており、議員報酬には生活給としての要素が含まれて良いと考える。また、社会情勢の変化や町財政の状況に応じて増減すればよい。報酬が主たる収入にならないと時間とお金に余裕がある人しか議員になりづらくなる。

報酬増額・定数2名削減グループ・・・4名（有吉・土井・岐部・河野）

主張と根拠： 類似団体比較方式と議会費固定方式を採用して、人口・産業構造・人口密度等の似通った自治体との比較と、町予算の1%を占める議会費を増額することなく、2名の議会費を10名に按分して報酬を増額する。そうすることで、新たな財政(税)負担を生じさせずに議員の報酬を増額することができる。

※詳しい採決結果については、チラシをご覧ください。



町政を質す 一般質問

8名の議員が質問

岩尾
茂樹



健全で適正な財政状況を維持するための予算編成が必要ではないか
(経常収支比率の悪化や実質単年度収支の赤字がここ数年続いている)

R8年度当初予算編成について

- 岩尾** 各課に対し例年と違う指示をしたか。
- 日野町長** 施政方針骨子を発し、重点施策を実施するための予算を計上するよう指示している。
- 岩尾** 歳入、歳出において前年度当初予算より1千万円以上の増減を計上している課は。
- 竹尾総務課長** 野上小長寿命化、旧野上中跡地整備、道路改良、町有施設改修、農林関係等の重点施策に関連するものは増加し、事業が終了するものは減となる。
- 岩尾** 既存の歳入、歳出の見直し予定は。
- 竹尾総務課長** 現段階では予定はないが、見直しに関するガイドラインや指針は作成した。
- 岩尾** 基金の取り崩しの予定は。(計画的な利用が必要ではないか)
- 竹尾総務課長** 年度末は、年度当初から残高が7億円程度減る予定である。来年度金額は未定だが、重点事業等を含め基金の目的に沿って運用していきたい。5年程度の計画は持っている。(野上小長寿命化、旧野上中跡地利用等)
- 岩尾** 町債の発行予定は。
- 竹尾総務課長** 金額等は未定だがハード事業等が予定されているので、過疎対策事業債等の交付税算入のある地方債を計画的に活用していきたい。
- 岩尾** 経常収支比率の見込みと限度と考える上限数値は。(ここ数年悪化している)

普通会計決算状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収支比率(%)	84.5	86.7	90.2
実質単年度収支	△2億978万円	△4億5,766万円	△4億6,207万円

*経常収支比率…経常的に見込まれる収入と支出を比べたもので、数値が小さいほうが弾力的な財政運営が可能となるが、悪化している。

*実質単年度収支…歳入(収入)から基金繰入金を除いた1年間の収支で、赤字が続いている。

竹尾総務課長 地方交付税や人件費等が確定していないので見込み数値は出せない。他市町村の状況を見ると95%が節目かなとは考えている。上限数値という考えは持っていないが、町の自律推進計画で87%以下という目標があり、目指すべきとは考えている。

岩尾 単年度収支と実質単年度収支の見込みと、今後の推移予想は。(ここ数年赤字が続いている)

竹尾総務課長 今年度は赤字が縮小すると見込んでいる。自治体は企業と違い住民サービス等のために赤字になることもありうる。しかし、赤字や基金の取り崩しが続くことは避けるべきと考える。財政調整基金は標準財政規模の30%を持つ方針である。

今後の財政運営について

- 岩尾** 財源の確保と歳出の削減等についての考えは。
- 日野町長** 財政は町の根幹を成す一番大事なものと認識している。基金についても計画的に利用し、繰入れ戻しも行っている。経済を活性化し税収増や交付金の確保にも努める。支出や収入(利用料等)についても見直し等検討を続けている。

地域おこし協力隊について

- 岩尾** 応募状況は。
- 吉光観光・地域振興課長** 現在2名を2次募集をしているが面接、採用に至った者はいない。

岩尾 現在の移住、定住のための支援策と今後の対応は。

吉光観光・地域振興課長 起業支援補助金(100万円・国の制度)、活動支援補助金(50万～100万円)、家賃補助(～6万円)、面談等の伴走支援を行っており、今後も採用に向け活動内容等の情報発信を行う。

☆九重町47億円の農業産出額! その52.5%が畜産業
支援制度と獣医師の確保いつやるの?

☆人口減少時代!仕事の効率化は
AI・生成AIの導入が必須!



岐部 俊哉

令和の時代を生きる! 第23弾「人づくり」は「町づくり」

畜産農家への支援について

岐部 畜産農家(乳牛・和牛)の戸数が減少しているが把握しているか。

藤野農林課長 下記の表の戸数となっている。

西暦	和牛	乳牛	参考数値
2020	96	13	2020 農林業センサス
2025	75	6	令和7年2月1日時点

岐部 町内の産業動物獣医師の人数と年齢構成は。また、家畜診療所の獣医師の数とその診療対象の範囲は。

藤野農林課長 産業動物獣医師は60歳代半ばの獣医師1名で、家畜診療所は3名の獣医師で玖珠郡内の診療を行っている。

岐部 共済組合は赤字で、基金を取り崩して運営しているが、経営状況を把握しているか。

藤野農林課長 ホームページでの確認及び必要に応じて資料を提供いただいている。

岐部 現状の診療点数が上がれば負担はどうなるか。

藤野農林課長 診療点数が2点上がれば農家の負担は3倍を超える負担となる。

岐部 診療負担額を町が助成できないか。

藤野農林課長 現状では受益者負担が原則である。

全国の獣医師の総数 40000人

※大分県は獣医師が特に少ないわけではない
大分県10万人当たりの獣医師の数37人(全国10位)

※玖珠・九重の個人開業産業動物医の現状は
九重町1人 玖珠町3人 の計4人しかいない

※玖珠・九重の産業動物医の不足を補うため
共済組合の家畜診療所に産業動物医を3人配置

※家畜診療所の労務管理上 働き方改革が必要
診療数 600件が妥当だが 玖珠郡 950件 1.6倍

このままでは畜産産業の下支えが不可能になる!?

獣医師の確保について

岐部 玖珠九重行政事務組合が獣医師を雇用しては。

日野町長 獣医師不足の中、過去の採用の経緯もあり町単独では難しい。県全体で支えていくシステムが必要であり、今後更なる検討を重ねていく。

岐部 獣医師養成に奨学金の給付制度ができないか。

藤野農林課長 大分県では県内で産業動物医として働く場合には就学資金制度があるのでそちらの活用ができることになっている。

AI・生成AIの導入について



[提供] 株式会社ベルシステム 24

岐部 AI・生成AIの導入にはどのような作業が必要か。

松尾未来デザイン推進課長 AIについてはデータ整理を含めた事務執行プロセスの見直し、生成AIについては活用場面の整理が必要である。町のDX推進基本計画で最重点取り組み事項としてAIの導入を位置付けているため早急に対応を検討する。

岐部 人口減少時代に仕事の効率化なくして自治体業務の遂行、ひいては住民サービスの劣化が懸念される。この点から自治体業務に特化した生成AI「マサルくん」導入は考えられないか。

松尾未来デザイン推進課長 導入予定は現在のところ無いが、今後複数の自治体向け生成AIを無料トライアル等で活用し、検証を実施した上で九重町に適したツールの選定を行っていきたい。

町政を質す 一般質問

増田
裕子



新年度の事業や予算に、集落維持等の具体的な人口減少対策を！ 吊橋の再活性化、来年20周年記念には間に合わず残念！

**人口減少まったなし！ 新年度に取り組みを！
吊橋20周年、再活性化の展望が見えない**

増田 一昨年3月に「大吊橋の魅力向上等を検討するための調査」を209万円かけて委託した。1年たっ出てきた設計が役に立たず、今、役場内でプロジェクトチームを作りさらに検討しているとは、どういうことか。

吉光観光・地域振興課長 今後の吊橋のエリア全体の将来に向けた再整備計画のコンセプトを求めた。ただ、実施設計に至るまでには、もうちょっと現実的な整備計画の方針等も内部で検討すべきではないかというのが、担当課の判断である。

増田 200万円出して業者に委託し、その設計が不十分というのが理解ができない。2年も費やしている。これまで吊橋の活性化のアイデア、アクティビティの導入や通行料金体系など、様々提案してきた。来年20周年で、町内外に吊橋の再生をアピールする最高の機会=商機だが、こんな状態で間に合うのか。大きな損失だ。

日野町長 20周年に合わせての整備は難しいが、手順を踏んで進めていきたい。

子育て支援は最大の高齢者福祉



増田 あらたな施策やアピールの計画はあるか。

穴井健康・子育て支援課長 今、九重町の子育て支援マップを作成中で、町の子育て情報を町内外に情報発信していく準備を進めている。

交流・関係人口の増加はこれから重要！

増田 野矢の山村留学の取り組み、飯田でも来年4月から高原留学を始めよう動きがある。町全体として、交流・関係人口の受け入れを歓迎し、応援する姿勢は。

吉光観光・地域振興課長 令和7年度、大きな柱としてAPUアジア太平洋大学との連携交流事業がある。ジョーンズ教授とまちづくり公社が連携してフィールドツアーを4回、轟ゼミが観光地域づくりをテーマに調査活動・報告を飯田まちづくり協議会と共同で行った。このような取り組みを好事例として、関係人口の増を図っていきたい。

社会福祉協議会(以下、「社協」)との関係について

増田 町の社会福祉事業において、社協の役割は非常に大きく、社協の皆さんが本当に一生懸命頑張ってくれていて感謝に堪えない状況である。町として、社協の位置づけは。

日野地域共生支援課長 社協は、ボランティア団体の事務局や災害時におけるボランティアセンター運営のほか、共生型サロンの活動の推進等、地域の福祉活動の拠点として非常に大きな役割を果たしている。町と社協は両輪の役割であり、町にとって必要不可欠なパートナーという認識だ。

増田 行政と社協との間での情報共有、連携が一番重要な課題と感じる。社協の会費や寄付は年々減少、毎年基金を取り崩しながらの経営と聞いている。あと10年で限界。町からの補助金や事業委託金の算定と、今後の方向性は。

日野地域共生支援課長 補助金や委託金は毎年予算編成の前に協議し算定している。町と社協との関係性は重要で、これからもより強固に維持していく必要がある。今後もしっかり随時情報共有を図り、連携を深めていきたい。

九重“夢”大吊橋入場料見直し 給食費無償化の早期実現について 町道の経年劣化の舗装改修計画は



大津留 敏加

大津留 来年20周年を迎える九重“夢”大吊橋の活性化事業は。開始時から据え置いている入場料の見直しは。

吉光観光・地域振興課長 庁内の20代から40代までの職員8人でつくるプロジェクトチームで協議しており、来年3月末までに総合的な整備計画を提示したい。料金見直しも、その中で検討している。

大津留 20周年を迎える日から町民の入場料を無料にできないか。

吉光観光・地域振興課長 町民の入場料無料の日を町民の日（毎年2月1日）に設けている。今後、効果検証を行っていききたい。



釜ノ口橋から北方大吊橋入り口交差点の間



九重“夢”大吊橋

大津留 町道の経年劣化の舗装改修計画は。

梅木建設課長 舗装改修計画は無い。

大津留 町の施設（泉水キャンプ場・大吊橋）に通じる町道2路線の四季彩ロード線・釜ノ口須久保線が重要路線と考えている。その中で、釜の口橋から大吊橋入り口北方交差点の間における舗装改修は。

梅木建設課長 本年度、AI技術を活用した道路システムの導入、幅員が4メートル以上ある主要な生活道路を対象に、劣化状況の診断を行いその結果に基づいた補修対象箇所を整備していく。緊急性のある箇所については、随時対応をしていく。

大津留 政府は令和8年度から小学校を先行し給食の無償化の予定と報道されたがどうなるか。

玉井教育振興課長・学校給食センター所長 本日現在、政府から何ら通知はない。

大津留 町は政府の方針に合わせることなく、中学校までの給食費無償化を令和8年度からできないか。

日野町長 賄い材料の高騰に対して、高騰した分を町が負担し、子どもが楽しめる給食にしている。日本全体の教育の公平性からみても、市町村で無償化はおかしい、政府が無償化すべき。町単独での無償化は考えていない。



学校給食センター

町政を質す 一般質問

河野
克輝



「道徳」を学ぶ上で「軸」が必要！
吊橋の通行料、高騰した維持費分は値上げ！
喫煙者の皆さん！「たばこ」を買う際は九重町で！

君が代

君が代は
あなたの世が

千代に八千代に
千年も幾千年もの間

さざれ石の
細かく小さな石が
(一人ひとりが)

巖となりて
大きな岩となって
(協力し合い)

こけのむすまで
苔の生えるほど長い間
栄えていきますように
(末長く繁栄していき
ますように)

※現代語訳は個人の解釈です。

※「君が代」の元となった歌は 1120 年前の平安時代に作られた「古今和歌集」に集録されています。鎌倉時代辺りで歌詞が現在の「君が代」になったと記されています。

道徳について

河野 今の九重町があるのは、千代に八千代に、千年も幾千年も前の人々が協力し合い、繋いでくれたからこそ今がある。誰でも知っており、千年前から歌われている「君が代」の意味や歴史を通して学ぶことで、先人への敬愛の念が生まれ、子供や孫、さらにその先の子孫たちのことを思うことによって、今を生きる町民一人一人に責任感が生まれ、これを大きな「軸」とすることで、当事者として九重町や人を大切にすることを育むことができるのではないかな。

時松教育長 多様な解釈がある「君が代」について、行政が特定の解釈として提唱することは、内心の自由や教育の中立性の観点から慎重な姿勢が求められるということになり、提唱することについてはできない。

九重“夢”大吊橋について

河野 10年前から維持管理費が4,000万円近く上がっており、来場者数は半分近く下がっている。この10年間にどんな事をやって、来場者数を増やす経営努力をしてきたのか。

吉光観光・地域地振興課長

花壇等の植栽であったり、環境整備のほうは、毎年できるところからやってきた。

河野 近年だけでも毎年1,000万円近く維持管理費が上がってきている。早急の対応が必要と思うが、元経営者の視点から見てどうか。

日野町長 短期的な物事の見方をしていくと経営というのは、その場は良いがその後に長続きはしない。大吊橋のあるべき姿を今、周辺を含め先を見据えた戦略を考えて行動しているところである。

たばこ税について

河野 「たばこ」を買うと、20数%の税金が買った町に入る（九重町R6度は3,340万円、玖珠町は1億数千万円）が、これを知らない人が多い。町民に知ってもらい喫煙者の方には「たばこを買う際は九重で」と、広報することが必要ではないかな。

佐藤税務課長 健康問題とは密接に関係している点もあり、喫煙を勧めるわけではないが、地元で買うことにより町へ「たばこ税」が入るということは周知したいとは考えている。

小中学生の習いごとを支援していくことで子どもたちの自主性・社会性・多種多様な可能性が開いていく!!



矢野 春美

小中学生の習い事の支援について

矢野 国の調査によると、子供の学校教育費は世帯収入によって大きな格差が生じている。全国の自治体では、小学校5年生から中学生を対象に習い事、塾の助成制度を導入しているところもある。

昨今の物価高、教育費関連の高騰の中、子供たち家庭の経済状況に左右されず、学びや体験の機会を得られるよう、また子育て支援制度の一貫として習い事の支援制度の導入を提案したいがいかがか。

玉井教育振興課長 町では機会均等の原則に基づき経済的格差解消のため、就学支援が必要とされた要保護、準要保護家庭への必要な費用を補助する就学支援を実施している。いわゆる学校外の学習活動は私的な教育活動であり、公平性を考えると直接支援する事は難しい。

矢野 格差是正に関しては、助成はなされているとのことだが、塾、スポーツ、またダンス、ピアノ、詩吟、太鼓など、地域の文化継承につながる習い事なども対象として、小学校5年生から中学校3年生の生徒数は約350人に1人年額3万円とすると、約1千万円の財源。今後生徒数が減っていく現状の中、子育て世代を応援することで、子育て世代の移住、定住の促進にもつながる。

導入した自治体での効果は、学習意欲の向上、進学率改善、経済的負担軽減といった成果が確認されている。そういった観点からどう考えるか。

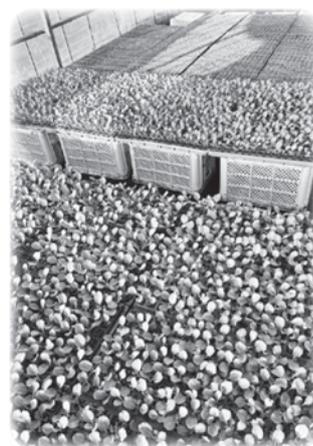
佐藤社会教育課長 教育格差是正から言えば、支援を必要とする家庭とそうでない家庭と区別しないで給付することは公平性を確保できない。

一度制度を始めると、途中で縮小・廃止することにより、子育て世代の不公平感を生むこととなる。また、大きな財源が必要となるので、慎重な判断が必要となる。行政としては、住民アンケートの結果を踏まえ、不登校、いじめ対策が優先課題と考える。

農業の担い手について

矢野 農業の担い手不足は深刻。世の中的需求も高まっている有機農業においては、意識の高い若い就農者も多い。高齢化で廃業が進む現状では、若い新規就農者を呼び込むためにも空いている土地や住まいを提供し土地と農業を守る具体的施策を打ってほしいがどうか。

藤野農林課長 現在も同じような取り組み、移住などの取り組みをしている。九重町で、就農して取り組んで行きたいとの相談に対しては関係機関と連携し対応しており、これからも同様に進めていきたい。



九重“夢”大吊橋通行料について

矢野 来年の20周年を機に通行料現在500円を1,000円に値上げし、稼げる吊り橋と位置づけ、自主財源を創出し、子育てや農業へ手厚く支援するための希望の財源として欲しいがどうか。

吉光観光・地域振興課長 プロジェクトチームの報告を土台として、料金見直しを含めて総合的な整備計画を提示したい。

町政を質す 一般質問

野上
香代子



子育て支援の強化が若い世代の移住促進に繋がり、それが人口減のくい止めになる

移住施策について

野上 町の主な移住施策と情報発信は。
吉光観光・地域振興課長 空き家バンク制度を活用し、売買、賃貸、双方でのマッチングを支援している。また、空き家の改修補助や家財の処分補助、移住応援給付金補助等で移住・定住の後押しをしている。情報発信は移住・定住のポータルサイト「kokokura(ココクラ)」、ホームページ、「移住定住ガイドブック」を活用し移住相談会等を行っている。

野上 移住者の推移と体験住宅利用状況は。
吉光観光・地域振興課長 過去3年間で移住は県外から22世帯40名、県内から7世帯12名、移住体験住宅の利用状況は41組、のべ492日利用である。



飯田にある移住定住促進住宅

野上 情報発信において、子育てや教育環境の充実をアピールしているか。

吉光観光・地域振興課長 「移住定住ガイドブック」の中で住宅に関する支援、仕事に関する支援と併せ、子育てに関する支援を発信している。

野上 町内空き家の把握は。
吉光観光・地域振興課長 空き家バンクによる登録はこれまでトータル293件、登録件数は増加傾向にあり現在は46件掲載中である。

志賀危機管理・防災安全課長 空き家が168件で、その内、特定空き家が4件である。

野上 移住後のフォローアップは。
吉光観光・地域振興課長 移住者交流会を開催した。今後は、移住前の相談から移住後のフォローアップを担う組織として、移住者交流組織の設立を目指して検討を進める。

野上 体験住宅を増やす考えは。
吉光観光・地域振興課長 他の地区での体験住宅の設置についても調査研究していく必要はある。

子育て支援について

野上 現在の子育て支援策は充実しているか。
穴井健康・子育て支援課長 アンケートによると、町の支援施策の成果として、町の子育て支援策に対する不満の声は特には聞かれなかったこともあり、おおむね満足していただいていると考えている。

野上 九重町における0歳から2歳児の保育料補助の現状は。

穴井健康・子育て支援課長 第2子以降の3歳未満の児童の保育料は免除されているが、大分にここ保育支援事業の対象とならない3歳未満の第1子の子供の保育料については、世帯の所得に基づいて保育料を徴収している。

野上 認可外保育施設への補助の現状は。
穴井健康・子育て支援課長 子育てのための施設等利用給付交付金として、3歳児以降の園児の保護者に対して、保育料に相当する月額3万7,000円の補助を行っている。

野上 認可外保育施設への支援と位置づけを明確にしなければならないのではないか。

穴井健康・子育て支援課長 大分にここ保育支援事業が認可外施設も対象となるように今後、町の要綱の改正も含め現在検討している。

野上 音楽や美術、伝統文化など外部講師を招き多様な文化体験を提供する取組はできないか。

穴井健康・子育て支援課長 幼児期の子供たちが様々な芸術文化に触れて感動や共感、表現することや想像する楽しさを体験することは、豊かな感性の育成や想像力、人格形成にも大きな役割を果たすものと捉え、特色あるこども園づくりを進めていきたいと考える。



パネルシアターに見入る子供たちと一緒に身体を動かす参加者

旧野上中跡地の整備事業の再検討を現在の規模、計画案には反対



菅原 美好

旧野上中跡地の整備事業について

菅原 旧野上中跡地の整備事業は、全天候型施設で人工芝という計画であり、事業費は多額になると見込まれる。今後人口減少が進み、この施設を利用する人は限られると思われるため、私はこの事業の現在の計画に反対だが、再検討はできないか。

佐藤社会教育課長 野上地区の区長及びまちづくり協議会に説明を行い、基本的な配置案について了承をいただいている。今後、地元要望を加味しつつ、令和8年度当初予算に実施設計費等を計上していく。



旧野上中解体の様子



東飯田小学校

物価高対策について

菅原 国からの重点支援地方交付金に町の一般財源を上乗せし、全世帯への灯油券の配布はできないか。

日野町長 各課に支援事業についての検討を指示しているところであり、一つの要望、提案として承る。

宿泊税について

菅原 宿泊税を導入済または検討している自治体が多くなっているが、大分県が県全体としての導入を検討していると聞く。その場合、町からの税の少なくとも半分以上を還元するように要望すべきだと考えるがいかがか。

日野町長 還元額についてはこれからの議論になるが、言うべきことははっきり言っていこうと考えている。

小学校のあり方について

菅原 ここ数年の出生数は20～30人程度。野矢小と飯田小を除いた4小学校の統合を進めるべきと考えるがいかがか。

時松教育長 具体的な統合数をあげることは非常に困難。関係者との合意形成が図られなければ、教育委員会として指針を出すことは難しい。

修学旅行費助成について

菅原 小中学校の修学旅行費に係る助成は考えられないか。

玉井教育振興課長 経済的な理由で支援が必要と判断された家庭には、修学旅行費の助成を実施している。これからもそのような家庭を重点的に支援したいと考える。



きらり★このえ人



獣医師 畜産農家 **武石** たけいし **秀一**さんしゅういち (松木前辻)

きらり★このえ人



今後の夢・目標は

楽しく安定した畜産経営を目標にしています。年間20頭の子牛生産を目指し、規模拡大を行いたいですね。

経営理念として、生産性（生産効率）向上を掲げています。いかに分娩間隔を短くできるのか、獣医師としていろいろチャレンジしていきたいと思っています。

九重町に思うことは

やはり、生まれ育ったところは居心地がいいですね。九重町は、自然や観光名所も多く、また高速道路等、利便性もよくなっており、とても魅力的な町だと思っています。趣味の自転車で走ってみるとそのロケーションの良さがよくわかります。

「町民の幸せこそが九重町の宝」となるよう期待しています。

議会に思うことは

九重での生活はまだ1年余りですが、議員の方々と田んぼや牛舎などで気さくに話ができるのは、いいですね。小さな町の特権ですかね。

町民の声に耳を傾け、町政に活かして頂けることを期待しています。

帰郷したきっかけは

県職員として畜産振興・家畜衛生業務で畜産農家と関わるなかで、いつしか自分も牧場を持って、自身の培ってきた理論を実践したいと思っていました。

昨年の定年退職をきっかけに、親の肉用牛繁殖と米栽培を引き継ぎ、新たに牛舎を整備して念願の牧場経営を始めています。

傍ら、週のうち3日程、昨年（令和6年）4月にできたキャトルステーション（子牛預託飼育農場）の指導委員として勤務しています。

九重町の畜産について

九重町の畜産は、肉用牛繁殖を主体に耕畜連携が進んでいて、生産者もベテランから若手まで層が厚く、熱心な地域ですね。特に若い方は、発信力もあり頼もしく感じています。

昨年4月には、産地の基盤強化を図るため、キャトルステーションが稼働しました。玖珠郡の畜産農家を対象に子牛を預かり、市場まで育成して出荷することで、生産者の省力化、出荷牛の斉一化を果たし、玖珠市場の評価を高める取り組みです。

稼働以来、預託頭数は順調に増加しており、出荷子牛の発育や価格も市場平均を上回って推移しています。

今後、中核的な施設として玖珠郡の畜産を盛り上げていけるように頑張っていきます。



キャトルステーション

